

滿意天子の眞言に曰く空を以て風の側を捻して前に當て、華を獻する勢にせよ、滿意は梵衆に生ず、我等は皆な梵天より生ず、怨衆と見ず、如來の所生も亦た是の如し、
 曩莫三曼多沒駄喃、阿唵唵唵唵唵藥、娑嚩賀。我等は皆な佛心より生ず、如來に終始あることを見ず、名けて出生大慈父と爲す。
 遍音天子の眞言に曰く慧の手、掌を側めて三輪を屈して此の音聲を善く知らしめよ、法界の諸天極めて歡喜す。
 曩莫三曼多沒駄喃、唵阿婆薩嚩嚩弊、娑嚩賀。

行者東の隅に於て 火仙の像を作れ

熾燄の中に住せり 三點の灰を以て標と爲し

身色皆な深赤なり 心に三角の印を置け

慧には珠、定には餅を操る 印を掌にし定には杖を持し

青羊を以て座と爲す 妃后は左右に侍せり

婆藪仙と仙の妃と 阿詣羅と瞿曇と

阿底哩と仙と 及び毗睪仙となり

次に自在女と 毗紐と夜摩女と

賢と摩羯と二魚と 羅喉と阿伽羅と

大主と訶悉多とを置け

次に摩伽と 七曜衆と間錯と

自記と質多羅と 果得と尾舍佉と

藥叉持明衆とを置け

次には増長天王あり 南門には難陀龍と

烏波大龍王と 并に二の修羅王あり門に近いて黑暗天あり

次には焰魔羅王あり 手に檀拏の印を持せり

水牛を以て座と爲し 震雷玄雲の色あり

七母と并に黑夜と 死后と妃と圍繞せり

奉教と鬼衆の女と 鬼衆と拏吉尼と

成就大仙衆と 摩尼阿修羅と

及び阿修羅の衆と 金翅王と并に女と九頭龍の印に準ぜよ

鳩盤茶と及び女とあり 火天は空を掌に在け

嚩思等の仙の印は 空を以て水の二の節を持す

次第に開敷して遍せよ先づ指頭を聞く 焰魔を定・慧合にして

曩莫三曼多沒駄喃、迦擻黑^{キヤラ}なり、囉底哩曳^{アラチリ}、夜^{エイ}な娑嚩賀。

焰摩^{エンマ}後の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、摩哩怛野吠^{マリチヤバイ}、娑嚩賀。

奉教官の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、只怕囉虞鉢多野^{シララゲハカヤ}、娑嚩賀。

(一) 拏吉尼の眞言に曰く離因無垢空三昧なり

(一) 拏吉尼一本の次に金翅鳥王の眞言あり

曩莫三曼多沒駄喃、頤唎訶^{キリカク}上の字は離因無垢なり、上に三昧あり、傍の點は亦た怒喇なり、訶は是れ因の義、點あるは忿怒なり。娑嚩賀。

泥哩底^{ニリヂ}の方の主を 號して大羅利と名く

刀を執つて恐怖の形なり慧刀なり 是れ諸の羅刹婆なり

蓮合して水を月に入れ 風を堅てて空・火を交へよ

及び羅刹女等あり

羅刹主の眞言に曰く左の手の空を以て地・水の甲を捻じて火・風を並べ堅てよ。

曩莫三曼多沒駄喃、囉吃^{アラキ}察娑^{シヤサ}食なり、娑は是れ堅の義是れ垢なり、傍に點あるは是れ菩提なり、亦是れ能食なり、阿の聲は即ち是れ行なり、吃察は是れ空を履むなり、法界三昧の主なり、其德を指すなり、彼をして、聞かじめ已つて歡喜して衆願を満す、娑嚩賀。

羅刹の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、囉乞利娑^{アラキシヤサ}議尼^{ギニ}弭^ミ、娑嚩賀。

羅刹衆の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、囉乞叉細毗藥^{アラキシヤセイビヤク}、娑嚩賀。

西門の内の左右に 忿怒無能勝と

阿吽目佉と對せり 難徒と跋難徒と

及び諸の地神とあり 龍王嚕嚕拏は

天の形にして女人の狀なり 龍光ありて龜を座となす

龍衆自ら圍繞せり 執耀衆と尊と辰と

店と對生と大光と 寂と蝸と弓と秤との宮と

月耀と及び女天と 男天と摩奴蔽と

遮文と鳩摩利と 釋と梵との二女天と

自在と烏摩妃とあり 門の北に當さに

廣目天と龍衆と 龍王と妃と眷屬と

那羅と毗紐と妃と 辯才と塞建曩と
 月の妃と戰捺羅と 鼓天と歌天女と
 歌天と樂天衆と 風天と並に眷屬と
 天使と並びに妃等とを安布すべし
 水天は絹索を執り 諸龍は散じて掌を覆せ
 二空は互に相ひ絞へ 二龍は左右の掌
 更互にして而かも相ひ加へよ 地神は寤寐を持せり
 辯才は即ち妙音なり 慧の風は空を持して
 運動すること樂を奏するが如くせよ 彼の天の費拏の印なり
 那羅延は輪を持せり 定の掌を以て舒べ散せよ
 後の契は空を以て風を持して 圓満にして輪の勢の如くせよ
 塞建曩童子は 三首にして孔雀に乗せり
 商羯羅の戟の印なり 定の空を自の地に加へよ
微しく三指を屈して散せよ、空を以て地の甲を捻するを加と爲す、對し合するを持す。

(二)注の中の火の字は悉くは水の字ならん。

後の印は空を以て地を持せよ 妃の密は三輪を開け前に堅つ
 遮文茶は内縛にして 火を合して頂上に安せよ
 月天は三昧の手或は空を以て火の初節を捻す、観すべし白月は華の中に在り。 白蓮華を持せり
 宿の密は火・空を交へよ 縛度風天の幢は
 智の拳の地・水を堅てよ空は内に在り 皆な眷屬圍繞せり
 廣目天王の眞言に曰く二拳を背け相ひ合せ空を以て火輪の甲を押し風を交えて索の如くせよ、左には鉤を執り、右の手には赤索を把るまおもへ。
 曩莫三曼多沒駄喃、唵尾嚕博乞叉、那伽地波路曳、娑嚩賀。
 水天の眞言に曰く大海の中の龍王なり、諸の龍王も此の眞言に同じ、左の手を大海に作し、大龍王は一切智の水大法の雨に而も自在を得たるを以て名けて王と爲す。
 曩莫三曼多沒駄喃、阿種子ハム水ナ播種子ハム水ナ鉢多主ナ曳、娑嚩賀。
 難陀拔難陀の眞言に曰く兄弟の二龍王なり
 曩莫三曼多沒駄喃、難徒鉢難娜曳、娑嚩賀。
 諸龍の眞言に曰く前は是れ龍王、此れは是れ諸龍なり、通じて此の眞言を用ゆ、龍は雲隙を嗽食す、萬像明かに現はし、大虚寂然たり、又た無盡の雲を起して普く法雨を雨らす、或は索の印を用ゆ、右の手なり。
 曩莫三曼多沒駄喃、銘種子ガヤナ伽種子ガヤナ捨種子ガヤナ你種子ガヤナ曳、娑嚩賀。

地神の眞言に曰く法雷の生ずる所依の處、言語の道を出過す、能く道場の地をして堅固にして傾動せざらしめ佛の心地を生長して内に眞如の境を證するを以て鉢哩體微と名く
曩莫三曼多沒駄喃、鉢哩體吠曳地神の名を便ち眞言と爲す、第三の字は種子なり、娑嚩賀。定・慧密かに頭を相ひ註へを奉くるに形にせよ、

妙音天の眞言に曰く即ち乾闥婆の類を攝す、左は仰けて臍の下に安じ琵琶の如し、右は散じて風・空相ひ捻して運動せよ、淨法身深く清淨に入る妙法音は解脱の聲を演出す、言詞柔美にして衆生を悦しめ隨順して法を説いて有情を度す。

曩莫三曼多沒駄喃、蘇上種ラツ囉サツ娑嚩帶曳即ち美娑嚩賀。

那羅延天の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、尾瑟拏吠、娑嚩賀。

后の眞言に曰く

曩莫三滿多沒駄喃、尾瑟拏弭、娑嚩賀。

月天の眞言に曰く瑜伽は圓滿にして淨圓實なり、體性遍く清淨なり、普く世間を照し能く極熱惱を除く、清淨の法藥を施す、甘露の十六分の十五を有情に施し一分は還生す、戰け謂く無生滅なり、淨月喻三昧なり、

曩莫三滿多沒駄喃、戰種子捺羅不死野、娑嚩賀。

二十八宿の眞言に曰く

曩莫三滿多沒駄喃、唵阿瑟吒シユフツ尾シヤチ孕ナムダ設シヤタ底ラビ喃シヤク諸シヤク乞シヤク察シヤク怛シヤク囉シヤク毘シヤク樂シヤク餘シヤク曩シヤク囉シヤク曳シヤク摘シヤク計シヤク吽シヤク惹シヤク、娑嚩賀。

魔醯首羅天王の眞言に曰く二羽を外に相ひ又へて左を以て右を押し直く地・風・空を繋ぎて召を成して本天及び一切の賢聖を供養せよ、

曩莫三曼多沒駄喃、唵クマ摩クマ係クマ濕クマ囉クマ囉クマ野、娑嚩賀。

烏摩妃の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、烏クマ摩クマ弭クマ、娑嚩賀。

遮文荼の眞言に曰く亦たは伏魔の印と名く、此の印を用へよ、定の手を仰けて劫波羅を口に置け。

曩莫三滿多沒駄喃、唵ナム護ナム嚩ナム護ナム左ナム門ナム拏、娑嚩賀。

風天の眞言に曰く轉を阿字に入るを以て本來無縛なり、眞の解脱なり、無言三昧は畢竟空なり、空の中に旋轉して昇あることなし、迷情の堅執盡くして餘すなし、往返神通にして自在を得、速かに有情を度す。

曩莫三曼多沒駄喃、嚩種子野名を眞言吠名を眞言、娑嚩賀。

北方の門内に 難陀と烏波龍と 俱肥羅と並に女とを置け

次の西には乞羅と 帝釋衆の眷屬と

明女と歌と樂天と 摩睺羅樂天と

摩睺羅伽衆と 成就持明仙と

持鬘と并に天衆と 他化と兜率天と
 光音と大光音とあり
 門の東には毘沙門と 吉祥功德天と
 八大藥叉衆と 持明仙と仙の女と
 百藥の愛才等と 賢鈎の本方の曜と
 并に阿濕毗備と 多羅と滿者と百と
 十二の屬の天女と 螃蟹と師子との衆と
 大戰鬼と太白と 毗那夜迦等と
 摩訶迦羅天とあり 多聞は虚心合にして
 雙地を掌に入れて交へ 空を豎てて風を側に屈して
 一寸ばかり相著けず 左に藥叉あり内縛にして
 水を豎てて二風を屈せよ 一切の藥叉女は
 空を入れて地の甲を持せよ 散じ合して三昧耶の如くせよ
 門の東に毗舍遮あり 内縛にして火輪を圓にせよ

(二) 井べて 支軌
 には 繋つに 作れり
 寫誤か。

前の印の火の甲を背けよ 即ち毗舍支と名く
 又大藥叉の印は 内縛にして水を(二)井べて二風を屈せよ
 多聞天王の眞言に曰く 八藥叉といふは摩尼跋陀羅は喜賢なり、布嚩那跋陀羅は滿賢なり、牛只迦は散支なり、婆多那哩、摩羅嚩多、毗迦迦、阿吒迦迦、半遮囉なり、
 曩莫三曼多沒駄喃、味室羅摩拏野、娑嚩賀。
 諸藥叉の眞言に曰く 虚心合掌にして火・空を相ひ又へ二風を鈎の形の如くし水を合せ豎てよ、能く食取し願なり、常に衆生の垢障を食して法界胎藏の中に住せしむ、
 曩莫三曼多沒駄喃、藥乞叉 藥乞叉は是れ衆の義、句は 濕嚩羅 自在なり、一切の煩惱を食する、娑嚩賀
 諸藥叉女の眞言に曰く 二羽の地・空を掌に入れて空を以て地の甲を捻し 風・火・水を相ひ捻じ散じて三昧耶の如くせよ、
 曩莫三曼多沒駄喃、藥訖叉食なり、尾你也達哩 句は云く藥叉持明なり、尾縛を喰す、娑嚩賀。
 諸毗舍遮の眞言に曰く 極苦の餓鬼は常に飢渴す、熱惱に迫められ惡因縁なり、第一義諦は遷變を離れ、大悲を以て苦の衆生を捨てず、
 曩莫三曼多沒駄喃、毗舍遮藥底 第一義の趣は、不可得なり、娑嚩賀。
 諸毗舍支の眞言に曰く 毗舍業你喃と名く、
 曩莫三曼多沒駄喃、毗旨毗旨 跋は是れ第一義、遮は是れ生死を離る、娑嚩賀。
 東北には伊舍那と 眷屬部多等とあり

戟の印三昧を拳にして 火・風を立てて背を屈せよ
伊舍那天の眞言に曰く 魔障首羅の化身なり

曩莫三曼多沒駄喃、嚕心と捺羅授與野と爲す、娑嚩賀。

諸歩路の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、囑縊唱伊、(一) 曼婆多恕歩路喃、娑嚩賀。

東門の帝釋天は 妙高山に安住せり

冠冠あつて嬰珞を被し 手に獨股杵を持す

天衆おのづから圍繞せり 左に日天の衆を置け

八馬の車輅の中にあり 二妃は左右に在り

逝耶と毗逝耶となり 摩利支は前に在り

識處と空處天と 無所と悲想天と

堅牢神と后と 器手天と天后と

常醉と喜面天と 左右に二の守門と

并に二の守門の女と 持國と大梵天と

(一) 曼婆多恕、
の句未詳、廣軌、
支軌には藥憎舍寧
さいふ。

四禪と五淨居と 次に水者と作者と

鳥頭と服と米溼と 増益と不染等と

羊と牛密と夫婦と 慧と流星と霹靂と

日天子の眷屬とあり 帝釋の印は内縛にして

二風を申べて針の如くせよ空は 日天は福智を仰けて

水を入れて空を以て側を持し 火輪を以て相ひ并べんと欲し

二地輪を舒べて合す 社耶毗社耶は弓の印

般若と三昧との手 風・地の節を相ひ背けて

水・火おのづから相ひ持し 空を竝べて心に置け

九執は二羽を合して 空輪を竝べて申べ

梵天は紅蓮を持せり月に準ず 三昧の空を以て水を持せよ

明妃は風を以て火に加へ 空を以て水の中節を持せよ

乾闥婆の密印は 内縛にして水輪を申べよ

修羅は智の手を以て 風を空輪の上に絞へ定の手は妙音天の如くす、諸天には若し事業を作さんには印單手にして作ることも亦た得。

帝釋天王の眞言に曰く 或は云く内縛にして空、地を合せ繋つこ、恐くは錯りならん、此の福をいは帝釋天本性無生の淨心地なり、用つて淨法身を莊嚴することを表はす、

曩莫三曼多沒駄喃、鑠シヤ種子キヤ増進ヤ娑嚩訶。

持國天王の眞言に曰く 右の拳空を繋てて風を鈎の如くして相ひ著アム左は此れに準じて腕を相ひ交へよ。

曩莫三曼多沒駄喃、唵アム地アム囉アム多アム羅アム瑟アム吒アム囉アム囉アム鉢アム囉アム末アム駄アム那アム、娑嚩訶。

把り、右の手の掌には留あり、種種の天衣嚴飾して左

日天子の眞言に曰く 世間に謂く日は衆生を利すこ、阿字の不生を佛日に喩へ、三昧の日出づれば諸暗を破

曩莫三曼多沒駄喃、阿ア你ニ恒チ也ヤ野、娑嚩訶。

摩利支の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、摩マ利リ支シ、娑嚩訶。

七曜十二宮神九執の眞言に曰く、定慧の手を相ひ合して空を徹しき風して火輪を離れよ、此れ一趣なり執シ囉シ名シく、若し近宿は即ち合して九執を取つて定と爲す。

曩莫三曼多沒駄喃、藥ヤ囉ラ醜ウ行キなり、指シなシ濕シ囉ラ哩リ也ヤ自在ジ鉢シ囉ラ鉢シ多シ得シなシ孺シ底シ諸シ囉ラなり、摩マ野ヤ性シなり

中に於て自在を得れば彼を呼んで得自在と名く、

梵天の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、鉢ハ囉ラ種子ジ惹ヤ一切キ衆シ生シ、鉢ハ多タ曳エ、主メなシ娑サ嚩ハ訶ハ。

乾闥婆王の眞言に曰く 清淨平等の聲言調美妙の音を出す、有らゆる聞く者を歡喜せしむ。

曩莫三曼多沒駄喃、尾ビ戍シ駄ダ音シ義シ薩サ囉ラ囉ラなり、嚩ハ係ケ你ニ出シの義シなり、言ハろハは清淨の音を出す、娑サ嚩ハ訶ハ。

賀。

諸阿修羅王の眞言に曰く 羅字は難垢不可得なり。

曩莫三曼多沒駄喃、阿ア素ソ囉ラ邏ラ延エン行キなり、囉ラ鷄キ囉ラ鷄キ特ト菌キ耽タ沒マ囉ラ鉢シ囉ラ、娑サ嚩ハ訶ハ。

摩喉羅伽の眞言に曰く 摩護羅誑モク名シく、

曩莫三曼多沒駄喃、藥ヤ囉ラ藍ラ尾ビ囉ラ隣リン、娑サ嚩ハ訶ハ。

諸緊那羅の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、賀カ迦キ娑サ喃ナ尾ビ賀カ薩サ喃ナ積キ那ナ囉ラ囉ラ、娑サ嚩ハ訶ハ。

諸人の眞言に曰く 摩努使也報と名く

曩莫三曼多沒駄喃、壹イ車シ鉢シ嚩ハ麼マ努ヌ麼マ曳エ迷ミ、娑サ嚩ハ訶ハ。

普く世明妃の眞言に曰く 普印

曩莫三曼多沒駄喃、路ノ種子迦路迦ノ世間ノ義ノ、即ち是羯囉野ノ作ナ薩囉彌ノ天ノ一切ノ曇ノ議ノ、樂ノ乞
 又健達嚩阿素囉ノ誑ノ拏ノ金翅ノ樂ノ聲ノ摩ノ羅ノ網ノ羅ノ網ノ諸部ノ等ノ訶哩捺野ノ爾ノ也ノ、心ノなノ羯
ヲ囉ノ灑ノ野ノ明ノ八部ノ等ノの心ノ尾質ノ恒囉葉底ノ種ノ趣ノ娑嚩賀ノ。

秘密主是の如くの上首の諸の如來の印は如來の信解より生ず。此れ等の上首如上の所説の諸
 印あり、乃至茶吉尼を後と爲
し、若し廣く部類眷屬を窮すれば其の數無邊なり、廣本の十萬偈に即ち同じく菩薩の標幟なり、其の
説く所の如し、并に此の本は其の上首を擧ぐ、綱繩を提する如し。數無量なり。又た秘密主乃至身分の擧動住止は知るべし、皆な是れ密印なり、舌相所
 轉の衆多の言説は知るべし皆な是れ眞言なり。若し阿闍梨明に瑜伽を解し深く秘密の趣に達すれ
 ば能く菩提心を淨む、心淨なるを以ての故に秘密
の法に通達す、故に凡そ有ゆる所作は皆な衆生を利益し調伏せんが爲めなり。施爲する所に隨つて佛の威儀に隨
 順せず云ふことなし、一切の身分の擧動施爲は是れ密印にあらざることなし、所有の言語皆な是れ眞言なり。
 是の故に秘密主眞言門に菩薩の行を修する諸の菩薩は已に菩提心を發せば、當さに如
 來地に住して曼荼羅を畫くべし。阿闍梨須らく密印、眞言等の法を體解し、一一に法則に違せず久しく
 すれば、即ち是れ諸佛菩薩に同じ、理事違せず善く次第を知
 り又た錯失せずんば當さに知るべし、必ず大利處しからず。若し此れに異なる者は諸佛菩薩を誘す
 るに同じ三昧耶を越ふ、決定して惡趣に墮せん。一切如來所立の本誓は、普く一切衆生の爲めに
 佛の知見を開かじめ、悉く我が如くならじめん
 と欲ふが爲めに方便して此の法印を立て玉ふ。世間の大王の嚴敎教令の過越すべからず、若し越する者は必ず重
 責を獲るが如し、必ず教典に順じ審かに經法を求め、又た明師に訪れて自ら誤るこま勿れ、若し法則に順ぜざれ
 ば徒らに功夫を費し虚しく光景を棄てて終に成す
 る所なし、徒らに罪咎を招きて益する所なし。

三落又十萬
 の數を一落又十萬
 す。

疑はしき所の不淨の者は 皆な嚩字を觀じて燒け
 辨事を以て身を加持し 十力の明を以て方に食せよ
ナウマツアラバ 曩莫薩囉沒駄胃ノ地薩恒囉喃、ラムバ 唵麼闍捺泥帝孺叱栗寧、チイ 娑嚩賀。
 淨意を以て念誦を作せ 功行の數未だ終らずんば
 中間ヒマに間ヒマあらしむべからず 或は語し或は出ること須ひ
 或は放逸に由つて 置いて數終らざらしむれば
 便ち成就を闕す 若し語せんと要せば當さに觀すべし
 嚩字舌端に在りと 或は部母の明を習せよ
 縱ひ語すれども間と爲らず 珠を持して心の上に當てよ
 餘は蘇悉地の如し 一一の諸の眞言を以て
 心意の念誦を作せ 出入の息を二と爲す
 常に第一と相應せよ 阿字を支分に布して
 持して三落又を滿せよ 普賢と及び文殊と
 執金剛と聖天と 現前して而も摩頂せん

行者稽首して禮し上り 速に闍伽水と

意生の香と華鬘とを奉れ 便ち身清淨なることを得 念誦の分限畢りなば

珠を持して本處に安せよ 方さに三摩地に入り

食頃あつて定より出でて 復た根本の印を結び

眞言七遍し已つて 次に虚空眼を陳べよ

香・華等を奉獻し 悦意の妙伽陀を以てし

闍伽と及び發願とをなせ 救世の加持を説いて

法眼道をして 一切處に遍じて久住せしめよ

當さに金剛掌を合して 明に隨つて遍く身に觸るべし 十萬を落又と爲し百萬を一俱胝と爲し、一俱胝を阿度多と爲し、一

阿度多を一那由他と爲す。廣くは華嚴經の如し。

加持句の眞言に曰く

曩莫三曼多沒駄喃、薩嚩佉、勝勝、但陵但陵、顛顛、達隣達隣、娑他婆野娑他婆野、沒駄薩底也嚩、達摩薩底也嚩、僧伽薩底也嚩、娑嚩迦嚩、吽吽、吠那尾泥、娑嚩賀、難堪忍大護を以て 左に旋して大界を解け

還つて三昧耶を呈して 頂上に之を散し開け
心に聖天を送つて 五輪を地に投げて禮し上り
當さに聖衆に啓白すべし 現在の諸の如來
救世の諸の菩薩 大乘教を斷せず
殊勝の位に到る者 唯し願くは聖天衆
決定して我を證知し玉へ 各各當さに所安に隨ひ玉ふべし
後に復た哀赴を垂れ玉へ

眞言に曰く

唵、訖哩妬縛、薩嚩薩但嚩囉他、悉地捺多、野佉弩讖、藥車特嚩、沒駄尾灑監、布
曩囉譏摩曩野觀、唵鉢娜麼薩但嚩囉穆 請し奉る所の諸尊各各所住に還つて無等の本誓の爲すに留止せられず。
前の如く三密を以て護し 懺悔隨喜等をなし
菩提心を思惟して 而も薩埵の身に住せよ
聖力に加持せられ 行願相應するが故に
持明して本教を傳へ 三昧耶を越することなく

學處に順行せば 悉地當さに現前すべし
我れ大日の教に依つて 瑜祇の行を開示するを以て
殊勝の福を修證して 普く諸の友情を利せん

國譯青龍寺儀軌卷の下 終

大正十年八月廿二日印刷
大正十年八月廿五日發行

國譯密教經軌第三奧付

【非賣品】

東京府北豊島郡高田町字雜司ヶ谷三百十二番地

編纂者 塚本賢曉

東京市牛込區若宮町三十五番地

發行者 伊豆宥法

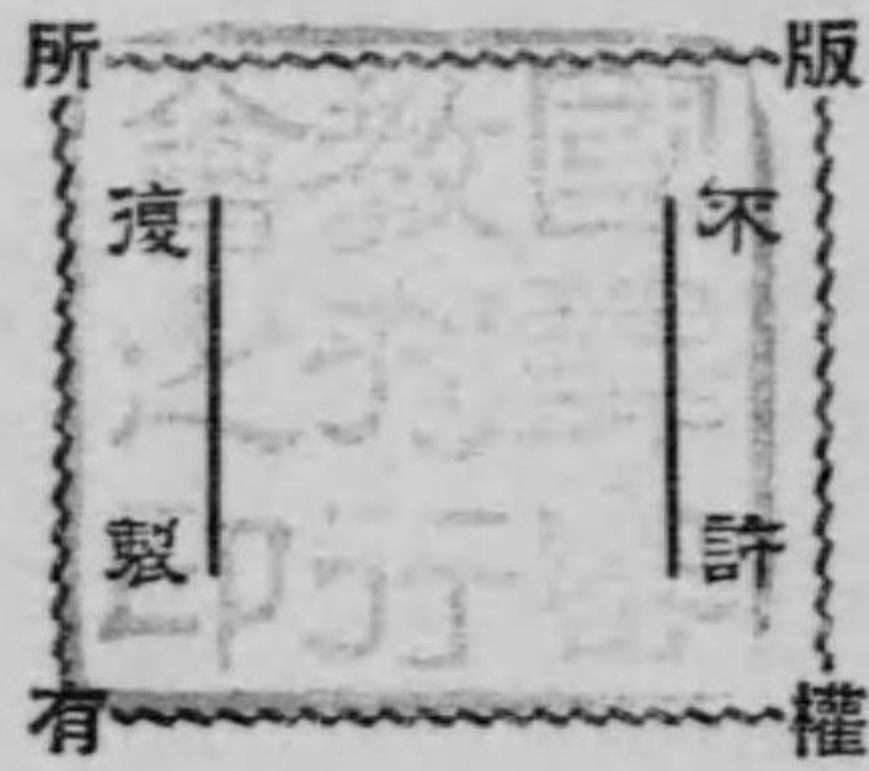
東京市本郷區湯島三組町八十一番地

印刷者 川邊多門

東京市本郷區湯島三組町八十一番地

印刷所 國譯密教刊行會印刷部

電話下谷參九貳參番



禁 轉 載

發行所

東京市牛込區若宮町三五
電話替東京五〇一八七
番町二五二三番

國譯密教刊行會

353
28

終